

# Hiroko の “お金について Q & A”

カナダ政府の税改正により、カナダの生命保険料が2017年1月1日から高くなります。2016年10月31日までのお申込みに限って、生命保険現行料金が適用されます。それ以降は新料金が適用される場合もありますので、お申込みはお早め。



**Q:** 前号で金 (Gold) のお話をされていましたが、金の上昇が今後も続きそうなら、金を買ってみようかと思っています。そんなに価値があるなんて、思いもよりませんでした。金のことをもっと知りたいので教えてください。

**A:** 2011年9月に1トロイオンス\$2000 近くまで上昇した後、各国の金融緩和で下降していた金価格は2016年1月に底を打ち、反発してきました。それが、今回の英国EU離脱により、世界経済の不透明感が増す中、金、銀の上昇トレンドに拍車がかかり、じりじり上昇してきており、この上昇トレンドは長期的に続く様相を呈しています。再度、金が安全資産として脚光を浴びています。ここで、少し金の歴史を見てみましょう。

## 永遠の資産、金の歴史秘話

13世紀、マルコポーロは、東方見聞録で「黄金の国、ジバングは、東の海上に浮かぶ島国で莫大な金を産出し、宮殿や家は黄金でできている。」と記した。後にその富を求めて、コロンブスも大航海に出たといわれる。金はエジプト、メソポタミアの古代財宝以来、数千年の昔から人々を魅了し続けてきた。金の歴史は、世界支配の歴史でもあり、金を持つ者が世界を支配し、19世紀までは金が世界支配者の象徴であった。

第二次大戦後、ブレトン・ウッズ体制が創設され、新たな金本位制が始まった。

金の価値を1トロイオンス (31.1 g) 35ドルに固定し、それに対し各国通貨の交換比率を定めた。この固定相場制のもとで、日本円は1ドル=360円に固定された。この体制下で西側諸国は、史上類を見ない高度成長を実現。特に、日本のバブルは「東洋の奇跡」といわれるほど驚異的だった。世界の経済、貿易、財政の規模が著しく増大した結果、金の供給量が経済規模の増大に見合わなくなり金本位制

は行き詰まり、1971年にニクソン・ショックにより米はドルと金の交換を停止。今では金本位体制は机上の空論といわれている。更に1973年には変動相場制に移行、ブレトン・ウッズ体制は完全に終結した。1973年時点で、金は1トロイオンス97.2ドル、現在、1350ドルぐらいなので、43年間で14倍になった。一方、円建てでは1973年、1グラム約1000円。現在は、1グラム4800円ぐらいなので、5倍に上昇。金価格は1980年の旧ソビエト軍のアフガニスタン侵攻時に一挙に、過去最高値875ドルをつけたが、その後、急落、米ドル一辺倒の時代が2000年初頭まで続く。

1990年代、米の音頭で、日欧の中央銀行に利子や配当を生まない金を売却し、高金利で価値も安定していた米国債や米ドルに乗り換える動きが広がった。欧州の中央銀行が金を大量に売却し、ドル・ユーロヘシフトした結果、金価格は250ドルまで急落。その中で絶対に断固、金を手放さなかったのは、独と仏だった。当の米国は他国に金売りを指示しながら、絶対に自国の金を手放さなかった。日本も含め、多くの中央銀行は平均300ドル程度で大量の金を放出したが、数年前、金を高値1500ドル以上で買い戻すはめになった。英中銀が1999年「金を415トン売却する」と発表し市場に動揺が広がった。英国は金本位制で世界の金融市場を支えた大英帝国時代の歴史があるだけに、その英国にまで「金離れ」が波及したとの見方が広がった。その後、「けた外れの安値で売った」として英政府は厳しく批判された。その頃、日本では店頭価格が1グラム1000円の大台を割ったこともあり、貴金属店の店頭は行列ができ個人投資家の金買いブームに火がついた。

その後ますます米のドル基軸制は確固たる地位を確立し、世界的経済成長とともにドルは金地金を凌駕した。米は紙切れを発行するだけの通貨発行権だけに甘んじることなく、

金地金の保有高でも現在も世界一の水準だ。

2001年9月の米同時テロの後から金価格の上昇が始まった。この頃から米の金融バブルに乗って商品価格は全面高になり、原油は2008年1月に史上初1バレル100ドルを付けた。とりわけ2005年以降の5年間だけで、金は1トロイオンス400ドルから1200ドルへ3倍に上昇した。2008年9月に米のリーマンショックで、株式、商品相場が暴落したが、その後、金は通貨量の増大と連動し急上昇を続けたのは周知のとおり。ニューヨークの金相場は2011年9月6日に1トロイオンス=1920ドル台の過去最高値を更新。現在、1300ドル台で推移。金価格急騰は、ここ数年の世界的な金融危機と国家財政危機、基軸通貨ドルをはじめとするペーパーマネーの信用急落を受け、現物資産、金に急速に資金が流れているためだ。海外の金需要が旺盛な理由について実質金利が大きく影響している。世界最大の金生産国であり輸入大国でもある中国の場合、インフレ分を差し引いた実質金利はマイナス状態。銀行に預金しておくだけでは資産は目減りしてしまうため、資金はより高い投資リターンを求めて金に向かう。金が上昇し続けるのは、金が商品で唯一、通貨の性格を持つ影響が大きい。現在の世界の国別公的部門の金保有量は米が断然トップ。

1. 米 約8.1千トン、2. 独 3.4千トン、3. IMF 2.8千トン、4. 伊 2.4千トン、5. 仏 2.4千トン、6. 中国 1.7千トン、7. ロシア 1.4千トン、8. スイス 1.0千トン、9. 日本 0.76千トン…18. 英国 0.31千トン

独、仏、伊など欧州諸国が金を大量に保有している。財政危機にあるはずの伊が、意外にも多くの金を保有しているのにはびっくり。日本は最近、中国、ロシアに抜かれた。英と日本は案外、少ない。もう少し多くてもいいのではないかと思うが、日本は、かつて「黄金の国」といわれたぐらい、昔は金が大量に出たにもかかわらず、今はかなり、さみしい数字だ。

CANADA e INVEST.com  
投資アドバイザー  
小林ヒロコ  
604-727-2320  
moxeyh@shaw.ca